

## 2019 第4回日伊友好並びに第2回 ASEAN 国際野球プログラム遠征募集要項

### 1 概要

I B A F（国際野球連盟）に加盟している国と地域は現在 124 である。因みにサッカーは 209、陸上競技は 212、バスケットボールは 214 の国と地域が連盟に加盟しているため、野球は世界的に見て、まだまだ人口が少ない競技である。更なる発展に向け大学準硬式野球界で何ができるのか。それは、国際交流・野球途上国への野球普及活動と考える。

### 2 目的

- ① 日本及びインドネシア、フィリピンでの野球強化試合並びに強化練習を実施、また野球未経験の小中学生への野球キャラバン等を通じて、野球先進国である日本と野球途上国である両国との新たな交流基盤を構築すること。
- ② SNS 等を利用したコミュニケーションを通じて、両国の文化や歴史的背景を学び、その違いに基づいて、異なった環境下においても野球の競技力向上が計れる仕組みを作り、競技力向上を促進する。
- ③ 実戦を経験することにより、理論だけでは習得できない動作や感覚を身につけることで、技術の更なる熟成を図る。
- ④ 東都大学準硬式野球連盟の選手の競技力、指導力の向上及び 21 世紀の時代にふさわしい国際感覚豊かな人材を育成する。

### 3 遠征場所

インドネシア共和国 ジャカルタ並びにバリ  
フィリピン共和国 マニラ

### 4 遠征日程（予定）

11月12日（火）～11月23日（土）10泊12日

### 5 遠征内容（予定）

- ① 強化試合（インドネシアナショナルチーム並びにフィリピンナショナルチーム等）
- ② 野球教室（試合後に対戦相手の選手・現地日本人会の少年野球選手）
- ③ 野球キャラバン（小中学校を訪問し野球を伝える play catch プロジェクトを実施）
- ④ レセプションパーティー（現地スポーツ省・野球連盟・日系企業など）
- ⑤ 企業訪問（現地企業及び日系企業）

### 6 派遣選手の募集要項

- ① 春季リーグ戦 1 部ベストナイン及び次点者、2 部以下各賞の受賞者を推奨するなか、国際的視野のある者を基本とし、将来的に海外事業に興味を持ち、グローバルな視点で社会的貢献を考えている者。
  - ② 野球というスポーツを通じ、日本に限らず、世界を視野に入れて選手及び指導者を目指す者。
  - ③ 理学療法士やコンディショニングコーチ、トレーナーなどスポーツの分野に携わることを目指す者。
- 以上のいずれかに該当する遠征参加希望者に対し、セレクションを実施し選抜するが、単に技術の優秀な選手を選考すると言うだけでなく、派遣の目的を理解し、自ら国際貢献の意志をもつ者を選考する。
- ※当該年度の秋季リーグ戦に登録している選手でなければならない。

### 7 選考人数（予定）

選手 18 名程度 主務・マネージャー（若干名） トレーナー・学生コーチ（若干名）

## 8 遠征費用（一名分）（予定）

15万円

## 9 申込について

別紙遠征申込用紙に必要事項を記入し、下記までに提出ください。

① 提出期限 6月14日（金）必着

② 提出先 〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-27-7 5階 全日本大学準硬式野球連盟内  
東都大学準硬式野球連盟 長島宛

## 10 選考方法

必要に応じてセレクションを実施する。

※予定日：6月23日（日）18時～22時 または 6月29日（土）9時～17時の間

## 11 各国野球史

### 【インドネシア】

人口2.5億人の世界第4位の国である。元々ソフトボール文化であり、ソフトボールの第一線の選手が引退した先に野球があった。本格的な国際大会参戦は1990年後半からでまだ歴史が浅く、現在野球人口は約2万人である。2016年に名球会の山崎裕之氏と山田久志氏による野球教室が開かれた。2018年にアジア競技大会がインドネシアで開催され、野球場も改修された。

現在、インドネシア野球を支えるのはインドネシア国家青年スポーツ省の公認アドバイザーである野中氏である。

人気スポーツは、サッカー、バドミントン、バスケットボールである。

### 【フィリピン】

アジア第二集団（第一集団 日本・韓国・台湾・中国）の最上位クラスであり、野球の歴史は長い。マニラにあるリサール・メモリアルスタジアムは、ベーブルースがプレーした数少ない球場として知られている。歴史的にアメリカの影響が強く、第二次世界大戦前後まで、野球はフィリピンの国技であった。しかし、同じアメリカンスポーツであるバスケットボールが市民権を得ていったことにより、野球は衰退してしまっている。とはいえ、野球の裾野は定着しているため、リトルリーグを中心に競技人口は、2万人を超えると言われている。2015年に名球会の北別府学氏と駒田徳広氏による野球教室が開催された。

現在、フィリピン野球を支えている人物は、フィリピンナショナルチームアドバイザーの板倉氏である。

人気スポーツは、バスケットボール、ボクシング、ビリヤードである。

## 12 広報戦略

現地メディア等を利用し、野球及び準硬式球を広めインドネシア、フィリピンへ浸透させていく。

## 13 準硬式野球の普及

東南アジア諸国においては雨季時期の雨量が多く、皮の硬式球の耐久度合いが低い。また皮の硬式球購入に際しても国内では入手が困難なため、雨天では軟球を使用して練習をすることも多い。このような状況下において、ゴム製の準硬式球の普及が期待でき更に、準硬式野球の普及も可能と考えられる。

以 上

## 2019 ASEAN国際野球大会遠征申込書(11月)

大 学 名			1・2・3・4・5・6 部リーグ 所属に○を記載
フリガナ			顔写真をはる位置 1. 縦 36～40mm 横 24～30mm 2. 本人単身胸から上 3. 裏面のりづけ
氏 名			
生 年 月 日	西暦	年 月 日	
現 住 所	〒 —		
携 帯 電 話 番 号			
メー ル ア ド レ ス			
ポ ジ シ ョ ン (複数回答可)			右投・左投 右打・左打・両打
身 長 ・ 体 重	cm	kg	セールスポイント
応 募 区 分 (複数回答可)	プレーヤー ・ 学生コーチ ・ トレーナー ・ マネージャー ・ 通訳 ・ 社会貢献		
応 募 理 由			
高 校 名			
中 学 在 籍 チーム	(例)○○シニア・○○中軟式野球部		

### 過去の成績(本人が出場したもの)

学年	年度	大会名	チームの成績	個人の成績

団 長	監 督	コ ー チ		